

第一部 原発事故に遭う……………15

序章 震災、原発から逃げる……………17

- 三月二日——地面にしゃがみ込んだ
- 三月二日——交差点の白い防護服
- 三月三日——二人で一つのカップ麺
- 三月四日——深夜の逃避行
- 三月五日——ふたたび川内、そして郡山へ
- 三月六日——猛烈に寒い、ビッグパレット最初の夜

第二章 避難所ビッグパレット……………29

1 大混雑の避難所——四月上旬……………30

- 四月四日——ビッグパレット 宿泊 風呂——練馬の湯 食事

四月五日——電話、テレビなど 退屈しすぎ 救護所 原発への賛否

消費期限切れのパン 子供たちの登校

四月六日——東電への人々の感情 掲示板 町の対策本部 旅館暮らし ペット

四月七日——トイレ、洗面所、洗濯 買い物 交通手段

四月八日——余震 今の町の様子

四月九日——衛生状態 ボランティア 消防団

四月一〇日——金の問題 痛ましい話 ストレスといざこざ

2 避難からひと月がたつて——四月中旬……………60

四月二日——一か月経過したのに 飯館村のこと 情報はどこから

四月二日——東京に行くには ノロウイルス

四月三日——ちよととおかしい 仕事の話

四月四日——菅総理発言 仮庁舎 駐車場

四月五日——犬の散歩 救急車 なぜ 子供たちの学校生活 洗濯機問題

借り上げ住宅を待つ家族 郡山市の様子

四月六日——二週間後に到着 補償金の仮払い 罰則はない 貼紙行政

ダンボールの家

四月一七日——収束までの道筋 苛立ちのもと 毛布

四月一日——人口密度 夜の衣類整理 気持ちの余裕 義援金の申請
館内移動 地震と道路

3 さらに続く避難——四月下旬……………88

四月一九日——余震の怖さ 奪われた自由 県とのやりとり
四月二〇日——補償金仮払い 仮払い補償金の手続き 様変わり
四月二一日——帰宅ラッシュ
四月二三日——はじめてのコンビニ弁当 立ち入り制限
四月三日——杓子定規 弁当の配布を待つ人たちの会話 借り上げ住宅

4 初夏を迎えて……………102

大熊町の旅館生活 我慢強きの秘密 救われない風評被害 働くことを忘れる
多くの人が避難所を去って 六点セットがきた 原子力災害とお笑い芸人

5 一時帰宅……………112

やっと実現した一時帰宅 わが家の様子 一時帰宅が伝えたこと

第二章 避難所で考えたこと……………117

1 避難……………118

マットと仕切り 「自主避難」のあいまいさ 私の町——富岡町と津波 弱い人たちの
避難先 心の栄養 要介護者のケア

2 暮らしは自分たちの手で……………126

仮設よりも賃貸 ちぐはぐなやり方 原発なみの管理が必要 生活費に関する不公
平感 支援の思いがけない影響

3 行政……………136

忘れられた双葉郡 原発災害と政府広報 役所間の上下関係 縦割りの弊害
役場の窓口対応

4 補償……………145

かつて暮らしていた町 補償の対象 3・11以前の生活水準の維持 精神的苦痛は減ら
ない 被害を減らす対応を急いで 損害の確定は「すべてが終わってから」

5 未来に向けて……………153

町の存続の危機 故郷とコミュニティをどう復興するか 周辺の町では 決断の日
立地町の復興の鍵はやはり原発 町の再建計画

第二部 原発を考える……………163

第一章 知られざる原子力の世界……………164

ヨーロッパからアジアへ 原子力に対する対照的な考え方 原子力の将来性 世界規模
の閉鎖社会 原子力業界の実像 原発にかかわっている人たち 多層構造の問題
原子力を財政面で支えた電力会社 電力経営体質と原発 原子力屋のロマンと原子力
政策の行き詰まり

第二章 原子力と安全……………188

安全安心などと言ってはいけない 安全の研究 確率論の落とし穴 やっかいなもの
という認識 ベローズの執念 原子力関係者が陥った罠 古い設計と新たな知見 形

第三章 致命的なりアルスの不足……………208

反省すべき想定甘さ ハードルを下げた罪 日本とフランスの差 立ち消えになった
対策 もろかったオフサイトセンター 通信途絶、事業者の責任 NHKの自負 避
難のための輸送手段 慣れ

第四章 原子力の本当の怖さ……………222

BOPとは何か 燃料棒の怖さ 原子力災害の実像 不安感のもと 食物汚染の
被害

第五章 原発の条件……………229

原発の経済的優位性が失われる 過保護より適度な競争 事故対応のためのマンパワー
経営感覚の問題 閉じこもってはいけない 「基準に従ってつくった」でよいか

第六章 原子力関係者の責務……………238

世界に学び続ける謙虚さを 体制の再構築を 原発停止の影響 烙印を押される原

発 最高レベルの安全対策の中身は何か 大組織の弊害対策を ひと言あつてしかるべ
き アポロ計画にならう 原発の社会性を忘れるな 原子力国営の心配 監督官
庁の体質 歴史に学ばぬ人たち

補償問題についての追記……………259

おわりに……………261